

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名 <small>あさひかわ もんべつ</small> 旭川・紋別自動車道 一般国道450号 <small>まるせつぶえんがる</small> 丸瀬布遠軽道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局			
起終点 自：北海道 <small>もんべつ えんがる</small> 紋別郡遠軽町丸瀬布南丸 至：北海道 <small>もんべつ えんがる とよさと</small> 紋別郡遠軽町豊里	延長 18.0km				
事業概要 旭川・紋別自動車道は、北海道縦貫自動車道比布ジャンクションから分岐し、紋別市に至る延長約130kmの一般国道の自動車専用道路である。このうち丸瀬布遠軽道路は、丸瀬布インターチェンジから遠軽豊里インターチェンジに至る延長約18.0kmの事業で、国土・地域ネットワークの構築により、物流効率化の支援や個性ある地域の形成、円滑なモビリティの確保に寄与する道路である。					
H18年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H19年度用地補償着手	H20年度工事着手		
全体事業費	約410億円	事業進捗率	18%	供用済延長	0.0km
計画交通量	11,400～13,200台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	2.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 313/385億円 事業費：276/349億円 維持管理費：36/36億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 960/960億円 走行時間短縮便益：805/805億円 走行経費減少便益：105/105億円 交通事故減少便益：50/50億円	基準年 平成21年
	(残事業)	3.1			
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.5(交通量+10%) B/C=2.6(交通量-10%) 事業費変動：B/C=2.8(事業費+10%) B/C=3.3(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=2.9(事業期間+2年) B/C=3.5(事業期間-2年)					
事業の効果等 地域の特殊性を考慮した便益 ①救急医療（初期治療）へのアクセス向上 ・当該道路の整備による救急医療（初期治療）へのアクセス向上効果【約0.74億円※】 ②余裕時間の短縮による効果 ・当該道路の整備により到着予定時刻に遅刻しないために見込む余裕時間が短縮する効果【約38億円※】 ※は、供用後50年間の便益額として試算した値（参考値） 定性的な効果 ③拠点都市間のアクセス性向上 ・道北圏の拠点都市である旭川市とオホーツク圏の拠点都市である紋別市、北見市のアクセス向上に寄与。 ④農水産品の流通効率化 ・網走支庁で水揚げされるホタテや、網走支庁で生産される生体牛の流通の効率化が期待される。 (ホタテ漁獲量：北見市 約3.9万t/年、湧別町 約2.5万t/年、佐呂間町 約1.0万t/年) ⑤観光地へのアクセス性向上 ・年間を通じてオホーツク圏の観光地へのアクセス及び安全性の向上が期待される。 (オホーツク圏の観光入込客数 約800万人/年) ⑥高次医療施設へのアクセス性向上 ・高度な医療機能を有する旭川市の高次医療施設（旭川赤十字病院等）への救急搬送時間短縮や、患者に負担の少ない安定した搬送が期待される。(遠軽町から旭川市への救急搬送14件/年) ⑦バス路線の利便性向上 ・札幌・旭川とオホーツク圏を結ぶ都市間バスの移動時間短縮や利用者の快適性向上が期待される。 (27往復便/日) ⑧広域行政サービスの効率化 ・市町村合併により広域化した地域行政サービスの効率化が見込まれる。 ⑨CO2排出量の削減 ・当該道路の整備により自動車からのCO2排出量10,030(t-CO2/年)の削減が期待される。					

